

特定農業振興ゾーン設定計画

項目	内容	
位置及び規模	面積 <u>51.5 ha (田32.6ha、畑18.9ha)</u> 地区 <u>宇陀市 伊那佐東部</u>	別途図を添付
地域の現状、課題と設定の目的	<p>当該地区の農地は、芳野川沿いや谷筋の水田と、国営総合農地開発事業大和高原南部地区で造成した畑を主体とし、水稻及び施設や露地での野菜、ダリア等の花きが栽培されている。</p> <p>地区内には大規模な農業法人も活動しているが、地区内の担い手だけでは全ての農地の維持が困難になってきており、耕作放棄地の拡大が危惧されている。</p> <p>そこで、今後、農業の効率化や担い手への農地の集積・集約化を図る必要があることから、特定農業振興ゾーンに設定し必要な支援を行うものとする。</p>	
高収益作物への転換	<p>既に、軟弱野菜(ミズナ、コマツナ、ホウレンソウ等)や有機野菜、ダリア等の高収益作物が生産されているが、更に、農地整備等により高収益作物の生産拡大と品質や生産性の向上を図り、大和高原宇陀ブランドとして農業振興を目指す。</p>	
耕作放棄地の解消・防止	<p>一部ではあるが耕作放棄地が点在しているため、農地整備等により解消に向けた取り組みを行う。また、新たな発生を防止するため、耕作継続が困難な農地の情報を把握し、担い手への集積等により対応を図る。</p>	
多様な担い手の確保	農業法人を中心とした認定農業者や認定新規就農者のほか、意欲的な担い手の育成を図り、下記の目標を達成する。	
	担い手	現況 (5～10年後)
	人・農地プランの中心経営体	5人 (3人増)
	認定農業者	5人 (2人増)
	うち法人	2法人 (0法人増)
	認定新規就農者	1人 (0人増)
	基本構想水準到達者	0人 (0人増)
今後育成すべき農業者	0人 (1人増)	
うち法人(企業等)	0法人 (0法人増)	
うち任意団体(集落営農等)	0団体 (0団体増)	
担い手への農地集積	<p>農業法人や大規模経営農家等の認定農業者、新規就農者など、規模拡大の意向を有する多様な担い手に対し、農地中間管理事業の活用等により、農地集積や集約化を推進する。</p>	
農地の整備	<p>ゾーン内には、国営総合農地開発事業で整備した農地もあるが、整備後に年数が経過し施設の老朽化が進んでおり、これらの施設の更新と未整備個所の用排水路施設の整備や土層改良等の基盤整備を行う。</p>	
農業の近代化(先進技術導入)のための施設の整備	<p>高収益作物の生産拡大を推進するため、ハウスなどの施設の整備を進め、省力化のためスマート農業の導入を検討する。</p>	
都市計画等他の計画との関係で留意すべき事項	<p>宇陀市が平成31年3月に策定した第2次総合計画に示された土地利用の方向性と合致させる。</p>	
農業委員及び農地利用最適化推進委員の役割	<p>農地パトロールにより農地の遊休化を監視するとともに、地域の受け手、出し手の意向を把握し、農地中間管理機構との連携により、担い手への農地集積・集約化を推進する。</p>	
その他		